

報道各位

2021.1.6

## 麹菌発酵大豆培養物(イムバランス<sup>®</sup>)による アトピー性皮膚炎への有効性及び幹細胞増強機能を確認

～ アレルギーの臨床 2021年41巻1月号に寄稿論文が掲載 ～

ニチモウバイオティックス株式会社（本社：東京都港区。ニチモウ(株)の100%子会社）は、東京農工大学、あいち小児保健医療総合センター及び広島大学との共同研究の研究結果について『アレルギーの臨床 2021年41巻1月号』にて論文を寄稿・掲載された（当該論文は2020年3月に掲載した論文に一部加筆修正を加え、再掲載したものとなります）。

そこで、当社で開発した麹菌発酵大豆培養物『イムバランス』を用いた試験において、それぞれアトピー性皮膚炎自然発症(NC/Tnd)モデルマウス及び小児アトピー性皮膚炎患者におけるアトピー性皮膚炎の改善効果を確認した。また、『イムバランス』を用いた動物試験において、放射線照射したマウスでの脾コロニー法による造血幹細胞の増強を確認した。

本研究では、麹菌発酵大豆培養物である『イムバランス』を用いた動物試験において経口投与群で臨床皮膚炎症状スコアが統計的に有意に低減したことを確認した。その効果にはFK506軟膏の表皮塗布群とほぼ同程度に臨床皮膚炎症状スコアや引っ掻き回数を低下させるのみならず、皮膚バリア機能の改善効果はFK506軟膏の表皮塗布群よりも優れていることが示唆された。さらに、臨床試験により『イムバランス』のアトピー性皮膚炎への臨床的な効果を確認することができ、『イムバランス』の関与成分である麹多糖が寄与したと判明した。また、放射線照射したマウスでの脾コロニー法を用いた試験において、『イムバランス』の経口投与群で脾重量及び脾コロニー形成数が有意に増加し、造血幹細胞増強効果が確認された。この作用は、生体内全ての幹細胞増強の可能性があり、幹細胞増強素材として用途特許が認められた。

アトピー性皮膚炎などアレルギー疾患は生活の質を低下させる深刻な社会問題となっている。抗ヒスタミン薬やステロイドなどの医薬品はアレルギー反応そのものを抑制したとしても一時的なもので、効果を持続させるためには定期的な使用が必要となる。

現在、様々な領域でプロバイオティックスの臨床応用が試されており、アレルギー疾患への補助的な治療として更なる発展が期待される。『イムバランス』はそういったプロバイオティックス作用だけでなくプレバイオティックスやバイオジェニックスといった複数の作用とそれらによる相乗効果を持ち、幹細胞増強作用による皮膚のバリア機能改善などの可能性も推測され、アトピー性皮膚炎を含む様々なアレルギー疾患への効果が期待される。

【お問合せ先】ニチモウバイオティックス（株）営業部（03-6478-5060）までご連絡ください。